



わかるすかあ？ 地域の魅力

多賀城・七ヶ浜のことをもっとよく知り、関心を持ってもらうために毎年開催される「わかるすかあ？」検定。**歴史・地理・観光・グルメ**などさまざまなジャンルから出題されます。検定を通して多賀城・七ヶ浜の魅力を知り、みんなで一緒にまちを盛り上げていきましょう。



調べながらでもOK!

検定に挑戦するたがさぼスタッフ。いつ・どこで解いてもよいので気軽に参加できます。



毎年デザインが変わります

合格者に贈られる、多賀城・七ヶ浜マスターの証。

過去問に挑戦!

多賀城市中央にある市内で一番大きい坂の通称は？



- ① マッスル坂
- ② マウンテン坂
- ③ マンモス坂

答えと例題
たがさぼPressで!
多賀城・七ヶ浜「わかるすかあ？」検定開催中!
2015年1月31日(土)掲載

第6回多賀城・七ヶ浜「わかるすかあ？」検定

検定料 無料!

期間：2015年1月15日(木)～2月15日(日)

主催・申込先：多賀城・七ヶ浜まちづくり推進協議会（多賀城・七ヶ浜商工会内）
住所：〒985-0872 多賀城市伝上山3-1-12 多賀城・七ヶ浜「わかるすかあ？」検定係
電話：022-365-7830 FAX：022-365-7880
E-mail：tagajo@fine.ocn.ne.jp HP：http://www.taga7.miyagi-fsci.or.jp/

参加方法

申込書に必要事項を記入し、多賀城・七ヶ浜まちづくり推進協議会まで持参、郵送、FAX、メールにて申込み。申込完了後、問題・解答用紙が届きます。詳細は、多賀城・七ヶ浜商工会ホームページ、市内公共施設に置いてあるチラシをご覧ください。また、たがさぼでも申込・解答の受付、問題・解答用紙の配架を行っています。

ヒント from “たがさぼPress” たがさぼのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● 断捨離で社会貢献「ワールドギフト」 2014年12月25日(木)掲載
自分はもう使わない、でもどこかで役に立つなら寄付したい。そんな品物を、必要としている途上国などへ届ける取り組みをご紹介します。

● 鳥目線での多賀城市街展望 2014年12月21日(日)掲載
多賀城のまちを、鳥の目線で見ることで遠くまで眺められ、新しい発見もありました。普段歩きながらでも、視点を変えると何かが見つかるかも？

● ブログが教えるチラシづくり実習講座 2014年12月9日(火)掲載
たがさぼ講座より、原稿の整理・ラフデザイン・文字サイズ・余白のことなど、チラシづくりのヒントをご紹介します。「5W2H」「AIDMAの法則」さて何のこと？

“たがさぼPress”とは？

たがさぼスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぼPressへ！*ケータイ、スマホからもご覧いただけます。

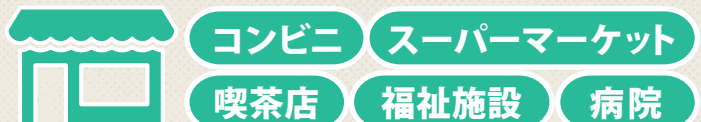


たがさぼからのお知らせ たがさぼが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

tag 配架先募集のお知らせ!

「tag」を設置していただけるお店、施設を募集しています。不特定多数の方の出入りがある多賀城市内のお店、施設で設置を希望する場合は、たがさぼまでお知らせください。**配架部数は原則10部～50部**。送料は当センターが負担いたします。お客さんや利用者の方にもっと多賀城のことを知ってほしい、地域に密着したお店、施設にしたい、という方はぜひご連絡ください。(連絡先：022-368-7745)

これまでの配架先例



阪神・淡路大震災から学ぶ 「震災」の課題から「地域」の課題へ

東日本大震災からの復興において、過去の災害の事例が参考となっています。今回は、昨年3月に大阪で実施された「3.11from KANSAI (実行委員会主催)」で出会った、阪神・淡路大震災をきっかけに立ち上がり、現在も地域づくりの最前線で活躍するNPO法人シンフォニー(兵庫県尼崎市)代表理事の山崎勲さんにお話をうかがいました。

生きがいのための仕事づくり

阪神・淡路大震災後、仮設住宅に住む高齢者は「生きがいがほしい」と仕事を求める方も多くいました。しかし、高齢者を雇う会社はほとんどありませんでした。そこでNPO法人シンフォニーでは、共同購入に取り組んでいた地域の生協の協力を得て、仮設住宅に住む高齢者による野菜の宅配事業を行いました。畑で採れてから2日で家庭に届く無農薬野菜ということで、特に若いお母さんに喜ばれたそうです。この事業を通して「誰かの役に立っている」「社会に参加している」という実感を持つことで生きがいと元気を取り戻したのです。現在では、被災者のみならず地域の生活困窮者や若者への、起業・就労支援を実施しています。仕事の紹介も行っていますが、多くが短期の求人であるという状況から、地域の中で自分で事業を立ち上げるための講座や相談、情報提供に重点を置いています。これからも生きがいづくりの一環として、地域の生活困窮者が自分で仕事を生み出していけるような支援を続けるとともに、こうした選択肢があることをもっと示していきたいとのことでした。



被災者支援のノウハウをいかして運営する「生きがいしごとサポートセンター阪神南」

NPO 法人シンフォニー

電話 06-6412-8025
E-mail info@npos.cc
HP <http://www.npos.cc/>



関西から東北へ、東北から全国へ

東日本大震災後、「職を失った」「障がいがあり避難することが難しかった」「避難所や仮設住宅で女性の意見が反映されにくかった」といった数多くの課題が明らかになりました。災害公営住宅が完成するとともに仮設住宅が解消されますが、仮設住宅がなくなったからといって、これらの課題をそのままにしておくのではなく、社会や地域の課題として取り組んでいかなければなりません。

「阪神・淡路大震災の時は、助成金をはじめとしたNPOやボランティアを支援する仕組みが整っていなかった分、工夫をしていた。こうして生まれた取り組みを東北の復興や課題解決に役立ててほしい。そして、今度は東北で生まれたものを全国に発信してほしい。」と山崎さんは私たちにメッセージをくれました。

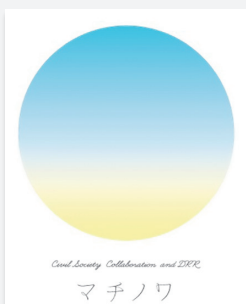
第3回 国連防災世界会議 パブリックフォーラム「市民協働と防災」テーマ館

3月に仙台で開催される国連防災世界会議にあわせ、東日本大震災の経験や教訓を生かした防災・復興に関する取り組みを、展示、ワークショップ、セミナーといった形で国内外へ発信するイベントです。多賀城でも生かすことのできる取り組みが学べますので、ぜひ足を運んでみてください。

開催期間	2015年3月14日(土)～17日(火)
会場	仙台市市民活動サポートセンター

主催	防災からまちづくりを考える実行委員会
HP	http://www.machinowa.net/

※スケジュールや内容などの詳細は上記HPをご覧ください。



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではツイッターもやります。フォローお願いします!
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>